

上田 勉

武士（もののふ）の夏 相馬野馬追 行われる一雲雀ヶ原で相馬の夏の風になれ

7月29日～31日、「相馬野馬追（そうまのまおい）」が行われました。野馬追は、東日本大震災と福島第一原発事故があった年にも、中止しないで行われました。去年の7月20日に避難指示が解除された南相馬市小高区（おだかく）では、唯一の神事である「野馬懸（のまがけ）」が去年復活しました。今年は、6年振りに小高神社で、出陣式と「帰り馬行列」が復活しました。

南相馬市は、鹿島町と原町市・小高町が合併してできた市です。福島第一原発事故によって、避難しない区域（鹿島区）、避難指示解除準備区域（原町区）、居住困難区域（小高区）に分かれました。

小高区では、去年7月20日に居住困難区域が解除されて、帰還できるようになりました。野馬追の前に帰還できるということで、住民は大喜びでした。

しかし、この避難時事解除には、経済産業省の悪企（わるだく）みがあったのです。今までの避難指示解除は、避難指示解除準備区域だけでした。しかしこの時から、居住制限区域は避難指示解除準備区域に下げるのではなく、居住制限区域のまま避難指示を解除しました。この時から避難指示解除の基準が、1mmシーベルト/年（0.23 μ シーベルト/時）から20mmシーベルト/年（4.6 μ シーベルト/時）に引き上げられたのです。

野馬追までに避難指示が解除されて、小高区の住民は帰還できるということで、大喜び。放射線の強度や町のインフラ整備や生活環境までには思いが至らなかったのです。

人よりも馬が大事—相馬市と南相馬市 【ここからはフィクションです】

帰還できるようになって丸1年が経った小高区、帰還した住民は約15%、帰還した馬は100%（?）、人よりも馬の方が郷土愛が強いのです。

この市では、人よりも馬の方が大事にされます。自分の腹心の馬（友?）だけを獣医学部の病院に入れようとした市長は、馬を私物化したとして辞職です。「こんな馬達に負けるわけにはいかない」と市長が言っても、馬達を分断したことによって辞職です。

馬術学校の名誉校長になって、馬術学校から100万円を受け取った市長夫人は、市議会で証人喚問されます。「(一番大事な)馬の日報の存在は承知していない」と言った眼鏡をかけた女性幹部は、市の特別監察にかけられて、更迭されます。

この市では、市長になるには、1つの条件があります。それは、馬に乗れなければならないということです。市長は野馬追では、騎馬団の大將になって指揮を取ります。国から来た副市長は、本来業務（馬についての公文書を廃棄すること、「馬についての記憶はありません」と議会で答弁すること）の前に、乗馬の練習が課せられます。

【原発被災地を巡るツアー】（いわき駅集合・解散、費用約1万円）

（第5回）10月21日（土）～22日（日） 1泊2日

参加希望者は 上田 まで メールにて

【騎馬武者行列—五つの郷の騎馬武者が雲雀ヶ原祭場を目指す（南相馬市原町区）】



【甲冑競馬—旗指物（はたざしもの）を風になびかせ、馬場を疾走する（雲雀ヶ原祭場）】

